

「木になるフェスティバル」の一日

企業支援部 技術支援グループ 小山内裕司

第 20 回木のグランドフェア「木になるフェスティバル」(主催：地方独立行政法人北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場，社団法人北海道林産技術普及協会)を，7月23日(土)に開催しました。当日は，昨年の雨天とはうってかわってまずまずの天候に恵まれ，およそ 900 名の来場者で賑わいました。

会場である林産試験場(旭川市西神楽 1 線 10 号)構内には開会前から訪れるひとが跡を絶たず，開会式への一般参加者を対象とした先着 50 名分の「林産試スタンプラリー」の台紙は，開始前にすべて配布されました。主催者あいさつの後に行われたオープニングログカットには，愛知県から道内旅行中に立ち寄ってくれた小学生にも参加してもらいました。

開会式終了後，各催事がスタートし，来場者は思い思いの催事を楽しんでいました。

今年は恒例の林産試験場ならではの木に関する各種科学体験はもちろん，毎年人気の工作体験の中には新しいメニューが取り入れられるなど，職員が趣向を凝らした全 12 催事で来場者を迎えました。



開会式での主催者あいさつ



新メニューのひとつ「セミ笛をつくろう」



主催者・来賓・来場者によるログカット



こちらも新メニュー「木生(もくせい)ゲーム」

もちろん新しいメニューばかりではなく，定番の工作体験や，試験場構内を使ってクイズを解いていく「ウォークラリー」なども子どもたちに大人気。そのほか，「節抜け防止ロボットの実演」や「木と鉄の加熱強度実験」，「バイオマス燃料を知ろう」など，研究

機関ならではの各種催事は、子どもたちだけでなく大人の方の参加も多く、来場者アンケートからも、「大変勉強になりました。」「もっと大人向け催事をやってほしい。」などの声も聞かれ、大人の方々の関心の高さもうかがえました。



節抜け防止ロボットの实演



バイオマス燃料を知ろう

林産試験場を知ってもらう催事の中には、場内のいろいろな場所で、林産試験場がどのようなところなのか説明を聞きながらめぐる「りんさんし☆探検隊」もあり、例年通り希望者を募って行われました。

また、研究をすすめるための貴重なデータを集めさせていただくアンケート調査も行い、試験研究の一環をかいま見ていただける場面もありました。協力していただいた皆さんには、職員手作りの記念品を差し上げました。

また、上川総合振興局からも毎年出展協力をいただいています。今年は「木のおもちゃづくり」を行い大変好評でした。



「りんさんし☆探検隊」での工場見学



内装材に関するアンケート調査



上川総合振興局「木のおもちゃづくり」

その他の催事もちょっとのぞいてみましょう。

「この木なんの木」では、実際に触ったり、顕微鏡で観察しながら、木にはいろいろな種類があることを確かめました。



この木なんの木

「タッチウッドをつくろう」では、ヨーロッパ伝統の魔除け札（タッチウッド）をつくりました。



タッチウッドをつくろう

「中学生木工工作体験」では、本棚や椅子などを自由にデザイン・創作しました。



中学生木工工作体験

「木のあたたかみを知ろう」では、木材と金属に手のひらをあてて、あたたかみの違いを体感してもらい、その原因を学習しました。



木のあたたかみを知ろう

以上、今年の「木になるフェスティバル」について紹介しましたが、今年で 20 回目を迎えたこのイベントは、旭川市内での夏のイベントのひとつとして、すっかり地域に定着したのではないかと考えております。

これからも「木の良さ」を皆さんにより知っていただくため、林産試験場と皆さんを結ぶ大切なイベントとして続けていきたいと願っています。

リピーターの方はもちろん、まだ「木になるフェスティバル」に来たことのない方々も、来年は是非気軽に遊びにきてください。お待ちしております。